

100th Anniversary 1924-2024 設立100年
地域の福祉・医療への更なる貢献

同愛記念病院広報誌

医療連携ニュース

秋冬号 **5**
vol. **5**
2024年11月



社会福祉法人
同愛記念病院財団

同愛記念病院

外科のご紹介

ロボット支援下大腸手術



外科 西川 武司

大腸癌は本邦において罹患数が第1位、死亡数も第2位と非常に多い疾患です。治療としては内視鏡、手術、化学療法、放射線治療などがありますが、手術で全部とってしまうことが一番治療効果を期待できます。我々外科医の頑張りがあるまま治療効果へとつながる疾患となります。手術治療は、開腹手術から腹腔鏡手術へと進歩をしていき、小さな創で早い社会復帰が可能となりました。

近年、世界では様々な領域でロボット手術が行われております。日本でも様々な領域でロボット手術が行われるようになってきており、我々大腸の領域でも2018年に直腸癌、2022年に結腸癌が保険収載されたことを契機に加速的にその症例数を伸ばしています。

ロボット手術の機能として①高画像3Dシステム、②多関節機能付き鉗子、③スケーリング機能、④手振れ防止機能があげられます。実際の手術のどこにこの言葉があてはまるのか大腸手術で考えてみます。①は、手術に奥行きができるということです。ロボット手術は奥から手前に操作することに長けており、腸管の授動を行う際に非常に役立ちます。②に関しては、腹腔鏡手術では組織を剥離しようとしたと

き、特に大腸領域では中結腸動脈を剥離しようすると鉗子が血管に対して接線方向であったため非常にやりづらく、左手で組織を上下左右に傾けながら行っていたと思います。しかし、ロボット手術ではこの必要が全くありません。左手で展開をする必要はありますが、血管の裏だろうが、なんであろうが鉗子が曲がることで剥離を非常にスムーズに行うことが可能となります。また、直腸手術の際には関節を使うことで狭い骨盤内でカメラや鉗子どうしが当たることも減り、鉗子が曲がることで肛門管内までの剥離も容易に可能となり、多くの症例で直腸のかなり低い位置まで腹腔内から切離することができます。③に関しては、大きく手を動かしても実際は小さくしかロボットのアームは動きません。つまり、手術の際に細かいところを操作するのにも、しっかりと手を動かす必要があるということです。細かいところをちまちま操作しないと組織の損傷を起こすといったことはなくなります。④は腹腔鏡だと自分の手の震えがダイレクトに鉗子に伝わってしまうことがありましたが、ロボット手術ではこのつらさはなくなります。

ロボット手術は関節があり、立体画像であることで開腹手術のような性質をもち、また高画像カメラをつかい拡大視効果があることで腹腔鏡手術の性質も持っているというこれまでの術式を合わせたような特徴もっております。新しいこの技術を用いて、地域の皆様ならびに地域の開業の先生方のご要望に応えられる様、ひきつづき努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願いたします。



スタッフ一同

呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科の最新事情



呼吸器外科 大村 兼志郎

実際にロボットを操作している様子

皆様初めまして。呼吸器外科の大村兼志郎と申します。我々は2023年7月に当院での診療を開始し、まだ歴史は浅い診療科でございます。この墨田区におきましては呼吸器外科を標榜する病院は少なく、診療を希望される皆様にはこれまで長らくご不便をお掛けしておりました。今回診療開始致しまして丸1年が経過し、お陰様で順調に診療実績を積み上げてきております。その一環と致しまして、呼吸器外科では他科に追随する形で内視鏡手術支援ロボット(ダビンチ)を使用した手術を2024年4月より開始し、このほど縦隔腫瘍につきましては保険診療として行う体制を整えることが出来ました。これまでのところ、ロボット手術を行われた患者さんは幸い全員術後経過が良好であり、元気に外来通院をなさっております。我々と致しましては、従来の

開胸手術(胸を大きく切り開く手術)や胸腔鏡手術(小さな傷から行う内視鏡手術)に加え、このロボット手術も含めて現在選択し得る全ての方法を皆様に提示することが出来ます。各々のメリット・デメリットを十分にご説明させて頂き、その中で最も適する方法をご一緒に考えていければ幸いです。

最後に私事にはなりますが、本年5月に中外製薬株式会社が主催した「呼吸器外科手術向上プロジェクト」という全国から253名の呼吸器外科医が参加した手術手技コンテストで優勝することが出来ました。日本一の呼吸器外科医が在籍する病院として皆様方にはお見知りおき頂きまして、是非呼吸器外科での診察が必要な方がおられましたら、当院を一つの選択肢としてご検討頂けますと幸いです。何より我々の強みは丁寧な診療でございます。「ただ手術をしておしまい」、というようなことがないように常に心掛けており、皆様のご不安などを細やかに解消するよう努めております。それでは皆様方のご来院を心よりお待ち申し上げます。



賞状を授与された大村先生

産婦人科のご紹介

当科でのロボット手術 および産科診療



産婦人科 小泉 美奈子

当科におけるダヴィンチ手術は、2020年10月に前任の平田先生が始められ、2022年4月から私が引き継ぎ、これまでに97件の手術を行いました。年内には100件に達する予定です。術式は良性疾患に対する子宮全摘術です。今年から制定された産婦人科のロボット技術認定医を取得し、当院は産婦人科におけるロボット認

定研修施設となりました。開始当初と比較して、より大きな子宮に対する手術をより短時間でできるようになり、遠方からの患者様も受け入れております。

産科分野でもより多くの皆様に当院のよさを知っていただくために、ホームページを改訂中です。「より安全で快適なお産」を目指して、緊急時のシミュレーションを定期的に行ったり、産後ケアを拡充したり、産褥食をバージョンアップしたりしており、それらも含めてホームページにわかりやすくご案内してまいりますので、ぜひご覧いただければと思います。



LDR(分娩室)

泌尿器科のご紹介

同愛記念病院における ロボット支援手術の軌跡



副院長 西松 寛明

同愛記念病院財団の記念誌「90年の軌跡」に「下町にロボット」と題して寄稿しているのですが、当時の故土屋院長から2013年の年末に私が前職の東京大学准教授として勤務していた時に、同愛記念病院にロボット支援手術器具を導入出来ないかとご相談を受けました。

当院でロボット支援手術の準備が動き出したのは2024年の1月16日に私が当院でプレゼンテーションをさせていただいたのが契機でした。当時の佐野事務長や前田副院長（現名誉院長）、そして平野部長（現院長）のリーダーシップの元にロボットの構成決定や価格交渉が始まりました。

2024年4月にDAVINCI Sが導入され、手術に向けての準備（東大病院看護師による説明会の開催、手術室スタッフへの説明、手術マニュアル作成、入院時のクリニカルパス）が始まりました。専任手術室看護師と手術室CEと夜中までかかりながらこれらを作成していきました。また新規の導入でしたので当院独自の教育プログラムを作成して関東信越厚生局へ提出して認可を受ける必要がありました。それと同時に手術室看護スタッフや病棟・外来看護スタッフへの教育、泌尿器科のスタッフのテストドライブやオンサイト・オフサイトトレーニングの実施。他病院への症例見学などをこなして2014年6月24日に当院で第1例目のロボット支援根治的前立腺全摘除術を行うことができました。その後も順調に症例を重ねて、腎

癌に対する部分切除術の保険適応を取得。2019年12月10日には2世代目のDAVINCI Xの初稼働日を迎えて根治的膀胱全摘除術や腎盂形成術も併せて保険適応を取得しました。婦人科のロボット支援子宮摘除術も当院で保険適応となりました。2023年10月3日には3世



2021年9月に500例到達記

代目となる運動ベッドやパワーデバイスを装備したDAVINCI Xiが稼働しております。さらに泌尿器科の根治的腎摘除術や腎尿管全摘除術の保険適応が追加されています。2024年は呼吸器外科や消化器外科でもロボット支援の新規術式が開始され、10月28日には当院でのロボット支援前立腺全摘除術は通算600例を達成、全科で総数900例を超えるロボット支援手術が実施されています。今回の連携懇親ニュースでは外科系各科に当科で始まった新しい手術についてご紹介させていただきます。我々、同愛記念財団一同は地域医療支援病院の役割を再認識しながら持続的に地域貢献可能な病院体制の構築を目指してまいります。どうか引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



ロボット支援根治的腎尿管全摘除術の外観

景観写真



中央棟外観南面近景



外観南面遠景(旧安田庭園から)



外観南東面



正面入り口



外観西面遠景(隅田川から)

ホームページアドレス <https://www.doai.jp/>

診療科のご案内

総合診療科、内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科



社会福祉法人
同愛記念病院財団

同愛記念病院

広報誌「医療連携ニュース Vol.5」

発行 社会福祉法人同愛記念病院

発行日 令和6年11月30日

編集人 広報誌編集委員 船木 新悦

印刷 日本印刷株式会社

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号

TEL.0570-200-678(代) FAX.03-5608-3211

地域医療 連携室 TEL.03-5608-3237(医療機関の方)

TEL.03-3625-6071(紹介状をお持ちの方)

[本機関誌の記事内容を他の用途に転用することを禁ずる]

同愛記念病院の理念

同愛記念病院は、地域の要請をふまえ

地域の基幹病院として親切で適切な医療を提供し社会に貢献します。

病院運営基本方針

私たちは、次により地域の基幹病院としての役割を果たしてまいります。

- ① 地域に密着した救急医療及び「すみだ平日夜間救急こどもクリニック」を行います。
- ② 医療機関、施設、医師会等との連携を推進し、地域の医療及び福祉サービスの充実と向上に貢献します。
- ③ 患者さんの権利を尊重し、インフォームドコンセントを充実させ、患者さんに寄りそった医療を行います。
- ④ 職員は絶えず自己研鑽を行いより高い専門性を発揮できるよう努めます。
- ⑤ 医療安全対策を強化し、信頼される医療を行います。
- ⑥ 医療を通じて社会貢献を継続するために健全な病院運営を行います。

編集後記

当院は2024年4月に法人設立100周年を迎え、4月25日には長期にわたり準備をすすめていた設立100周年記念式典・祝賀会を盛況のうちに終えることができました。

今回の地域医療連携ニュースVol.5では、泌尿器科に続き、外科、呼吸器外科、産婦人科へと続々と導入されているロボット支援下での手術にフォーカスさせていただき、それぞれの診療科の取り組みを記事といたしました。今後も地域のみならず開業医のご期待にそえるよう精進してまいりますので、引き続きご支援をよろしく願いたします。

(Y)